

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習A	1・2・3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業最終日が補講日の土曜となったこともあり、出席が少なく、十分な評価サンプルが得られていない。 当科目は、高校で専ら実用英語検定試験の受験指導を受けてきた新入生が主な対象になるため、TOEIC TESTの特性に応じた学習への基礎的な方向付けと指導に努めた。 TOEIC TESTにおけるスコア400の達成が目標となるため、主に中学校学習指導要領の範囲の文構造、文法事項の応用力と、同テストがグローバル社会におけるビジネス・社会で必要とされる英語情報処理能力を問うことから、国内外のビジネスや社会の仕組み・慣行などへの理解と語彙力強化を促した。 使用テキストは、このレベルに適切なTOEIC TEST新形式対応の教材が少なかったため、ややレベル的には難度が高い新テキストを採用せざるを得なかった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	TOEIC IPテストのスコア400以上が単位取得の必要条件となる科目で、今期の合格率は56.3%と、対前年度比微増であった。 実績として、一昨年度の受講者平均点は410.0で、一昨年度は394.0、昨年度394.7、今年度の確定スコア平均は442.8であった。 授業評価アンケート回答数が6名に止まっているため、結果をくみ取りにくいですが、授業評価における「到達度自己評価」の平均値は4.2であり、「授業の質評価」の平均値3.8と共に、昨年より低下した。従来よりも平均スコアが顕著に上昇している一方で評価数値が下がっているのは、学生が求めている授業への期待には沿えなかった点があったということだと捉えている。 なお、単位取得に至らなかった学生7名中6名は公開テストを受験しておらず、合格した学生に比べ、TOEICへの取り組み自体が十分でなかった。(残る1名は、合格点を取得しておきながら、本人の手続きミスで不合格に終わったもの。)					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	実践的英語情報の処理能力として、理解の速度と正確さを測るテストTOEIC TESTの性格から、DP1-2、DP5-2の位置づけによる教科内容は妥当であると考ええる。 平均スコア442.8は、CPが目指すべきレベルではないが、殆どの1年生は、TOEIC TESTについて実用英語技能検定ほどには予備知識を持っておらず、過年度同様にオリエンテーションで指導されるままに受講登録した模様である。 このため、実社会やビジネスで必要となる語いや表現を主に取りあげ全て英語で行われる当テストへのとまどいからの学習スタートとなっている。しかし、単位取得に必要な最低限のスコアから、学生によってはそれを大きく上回るスコアを取得できていることは、IPテストや個人的に取り組んだ公開テスト受験の過程を通じて、情報収集・情報処理の技術や方法を身につけてきていることを窺わせている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	TOIEC TESTの目標スコアレベル400に対応する教材について模索が続いており、今年度も新たにテキストを新たに採用したが、学生の習熟度に幅があったため、基礎学力に劣る層への指導が十分とはいえなかった。 授業に際しては、毎回宿題と予習課題を出したため、結果的にTOEIC TESTに関連して授業以外の学習に取り組めるほどの余裕を与えない形になったことが考えられる。図書館や店頭にまだ旧形式テストの対策本が多く残っている一方、新形式テストに対応した教材とノウハウが少ないという過渡期として検討した結果が、今期の授業形態であった。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上級生でTOEIC受験を継続する人数に限られる現状では、まず入門レベルとしての本科目において1年生9名中4名の合格者を出せたということは、その波及効果として後期科目で17名が履修登録することにつながっており、1年生の間での意識の高まりが認められる。 このことも勘案すると、全体としての教育目的は「やや達成された」レベルであると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
TOEIC演習C	1・2・3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	TOEICテストのスコアを伸ばすことを目標に受講する者が大半であり、殆どの受講性は授業中の取り組みでも積極的であった。 授業にあたっては、前年度に引き続き、TOEICテストが扱うビジネス・社会生活関連の語いや表現を学習することと並行し、社会人受験者と比べ、学生の弱点である実際のビジネスや社会のしくみ・慣行についての知識も身につけられるように留意した。 講義資料システムを活用し、リスニング対策教材を提供し、リスニング技能の向上を支援した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	個々の受講性のTOEICスコアは、受講前の学科全体のIPテスト実績平均522.9と比べ、成績評価となるTOEICテストのスコア平均593.3と、平均で70点を上回る伸びを示した。 受講にあたって、単位取得の条件となる600点は難しいが、自らのスコアを伸ばすという持続的な取り組みの一環として履修した400点台の学生5人のうち、1名には伸びが見られなかったが、4名は100点を超える伸びを示した。また、既に500点台後半、600を若干上回るスコアを持ちながら、授業の課題への取り組みが弱かった2名には、目立った伸びが見られなかった。 以上の結果、単位取得に至った受講生は半数の6名であった。当職としては、単位取得には至らなかったものの、受講を通じてスコアを100以上改善した4名についても高く評価したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	単なるTOEICテスト受験準備の学習ではなく、グローバル人材として必要なビジネスや社会のしくみ、日本と欧米との違い、IT化の現状などを取り上げることで、該当するDP方針に沿った授業運営を心掛けた。 DP1については、平均スコア593.3は、英検2級相当とされる530前後を上回っている。2年生4名が600代のスコアを得ていることから、「確かな知識と運用能力を身につけている」と言える。 DP4、5についても、TOEICテストの性格から、殆どの履修生が科目として求める資質を備えていると評価できる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	他の科目と異なり、TOEICテストのスコアで単位取得の可否が決定するという科目の性格上、不合格を恐れて受講者が少なくなるということが、授業以前の問題として存在する。その点、単位取得にこだわらずに学修に挑戦した学生を得られたことは心強かった。 授業については、説明の理解のしやすさで3.8と比較的低かったのは、TOEICで扱われる広範な言語材料と、学生の弱点である社会生活などへの知識についての説明が多すぎたためと思われる。説明事項が多岐にわたるため、この授業では意見をまとめる、話し合うという時間は設けておらず、評価の3.7は高すぎるほどに感じる。質問については、問題に解答し、根拠を確認するという時間に多くを割いたため、主にその点に絞って時間を取っており、3.8という評価になったものと思われる。 当科目では、TOEICテスト受験に必要な語い・表現の構築については基本的に学生個人の努力に委せている。この点については、学生に十分説明し、併せて必要な材料をハンドアウトや講義資料システムを通じて提供した。 図書館利用については、目標スコアのレベルに絞った準備を進めるには、概括的な一般問題集(公式問題集を含む)では効率的な学修が進まないもので、宿題などの課題に取り組むことを優先した。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	TOEIC TESTのリーディングセクションでは、文法、語法、構文の知識を基礎として、テストが取り扱うビジネスから社会生活に関する語い・表現の知識が必要とされる。不合格者は特に基礎となる文法、語法の知識が不足しており、この点の指導については、少人数クラスにも拘わらず、合格点を取れるまでの指導ができなかった。しかし、レベルにかかわらず、しっかり取り組んだ履修生には期中のスコアの大きな伸びが見られた。単位の取得率は低かったが、到達度に関する学生全体の自己評価が平均で4.5となっていることから、一定の教育目標は達成されたであろうと理解している。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 学生の授業評価アンケート(42名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100%であって、他の動機は「単位取得」が10%、「資格取得」と「関心」が2.5%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、＜評価基準は明らかであった＞の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「16, 17, 12」で100%であり、否定的回答と無回答は「0」であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与え、授業への参加意識を高める工夫の一つとする。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には看護と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫する。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫する。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	① 成績を見ると、平均値は84.08点であり、再試対象は0名であった。分布的には、90点以上が27.65%、89～80点が42.55%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は70.21%であり、79～70点が23.40%、69～60点が6.38%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは29.79%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 45名の学生の達成自己評価を見ると、＜知識＞＜理解＞に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「12, 17, 15」と「10, 21, 12」で97.78%と95.56%で、否定的回答は「少し」「全く」の順(以下同)にそれぞれ、「0, 1」と「1, 1」で2.22%と4.44%であった。それに対し、③専門分野では、＜検討する力＞＜判断する力＞に関しては、肯定的回答はいずれも「7, 17, 18」で93.33%であったのに対し、否定的回答は「2, 1」で6.67%となった。また、＜意欲＞に関し肯定的回答は「7, 17, 19」で95.56%であり、否定的回答は「1, 1」で4.44%であった。④＜技術＞と＜コミュニケーション、表現力＞の習得に関しては、肯定的回答はそれぞれ「9, 15, 18」「7, 14, 17」で93.33%と84.44%であったのに対し、否定的回答は「1, 2」と「3, 4」で6.66%と15.56%であった。⑤学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「8, 19, 16」で95.56%であったのに対して否定的回答は「1, 1」で4.44%であった。⑥＜職業選択の参考＞では、肯定的回答は「7, 15, 16」で84.44%であったのに対し、否定的回答は「4, 3」で15.56%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。＜自分なりの目標を達成した＞には、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「10, 18, 16」で97.78%であり、否定的回答は「少し」「全く」の順にそれぞれ、「0, 1」で2.22%であった。つまり、97.78%の学生が自己評価出来たということに鑑み、内容的には妥当であったと考える。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、国際的視野と地域的視野に立つて行動するための豊かな教養と幅広い知識の習得による＜知識＞＜理解＞には97.78%と95.56%の肯定的回答がなされている。また、専門分野における現代社会の諸問題についての適切な対応を可能にする＜検討する力＞＜判断する力＞に対しては、肯定的回答はいずれも93.33%であり、世界文化への関心・理解の＜意欲＞もグローバル社会に協同する姿勢を重視する＜規範習得＞も、95%台であった。また多元的価値観に相應しい＜技術・表現＞の事項につき、肯定的回答は90%台と80%台であった。ことから、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。③ 以上から、内容的には問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	① 学生からの担当教員へ意見は2件あり、いずれも肯定的なもので、「有難うございました」という感謝と「良い先生だったし授業も面白かった」というものであった。 ② 授業課題以外の取り組みにつき、6人が取組んだ学習内容を挙げ、4人の学生がしなかった理由につき「授業で理解できた」(2)、「時間がなかった」(1)、「することがなかった」(1)ことを挙げた。第1回目授業から配布している「自己学習記録」に予習・復習欄を設けたが、それ以外の取り組みについては積極的に指摘しなかったことが原因であったと思う。 ③ 学習量の評価を見ると、<1回30分以上の予・復習>6回を各5人、4人が実践し、1回以上の予・復習は各32人、71%以上であった。 ④ 授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「15、18、12」で100%であった。<理解しやすい>という項目では、「14、15、12」で91.11%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「4、0」で8.89%あった。 <学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「11、16、15」で93.33%に対し、否定的回答は「2、1」で6.67%あった。 <参加の機会>では肯定的回答が「8、15、15」と84.44%であり、否定的回答が「4、3」で15.56%であった。学生が参加しやすい工夫が必要である。 ⑤ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1)レジメの配布、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所はオープンにして理解の共有化を図る工夫をする。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	① 授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。 ② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。学生の担当教員への肯定的な意見は、この反映と思われる。しかしこの科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、上記に記載した改善策に取り組む工夫をする。 ③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメを改善し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ジェンダー論	1・2・3・4	前期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、「単位数を確保する」を挙げた者が80%と高く、「関心のある内容である」を挙げた者は10%に留まった。すべての受講者に初めから積極的な受講姿勢を期待するのは難しい状況の中で、新聞記事を始めとしてできる限り最新の情報を用いながら、ジェンダーが現在の女性の生き方に係わる重要な問題であることをつかめるようにした。また、学科の特性に配慮して、アメリカのジェンダー問題も意識的に取り上げた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では、大半の項目で平均値が3.5～4.0であった。その中で、知識の確認・修正・取得に関する項目が4.0と最も高かったのに対し、コミュニケーション力や表現力を高める項目は3.1と低かった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、DP1、DP2、DP3に係わる位置付けがなされている。上記の到達度自己評価から、おおむね内容的妥当性はあったと思われる。その一方、学習量・図書館利用の低さが目立つので、教員には学習の意欲・関心を高める工夫が求められた。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業は、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に当たっては、最新の新聞記事も使って、ジェンダーをめぐる今日の問題が捉えられるようにした。授業の中で使用したキーワードについて説明させるレポートを課したことは、理解を整理する上で有意義であった。また、アメリカの「中絶論争」について考えさせるレポートを課したことも、思考を深める上で有意義であった。しかし、レポート作成以外の予習・復習については、学生任せにしたきらいがあり、教員には課題を具体的に与える姿勢が求められた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義を通して、ジェンダー問題に関する基本的な知見を与え、関心を高めるという課題は、一応達成できたと思われる。しかし、アクティブラーニングを促す工夫については、なお改善の余地が大きい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル I	1・2・3・4	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本講義は韓国語学習歴がない学生を対象に韓国語の基礎を身につける事を目標としている。ハングルの読み方とその正確な発音、文構造の理解、数字の使い方などの基礎を身につけ上級クラスへ進められる知識と身につけられるよう授業を進めてきた。 学期始めに実施したアンケートで「k-popが好きだから」「韓国旅行の際、役立てたいから」などの積極的な受講動機もあったが、「友達が取ったから」「他になかったから」などの動機もあり、学習に対する姿勢に差がある事が事前に分かったため、興味を持続けるよう韓国の小話やk-popを授業に取り入れた授業にした。 また中間試験や小テストの実施で学生の理解を確認しながら授業を進めた。また復習項目と次回講義の予告をする事で自習を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績平均は68で平均レベルだった。今年は聞き取りに力を入れていたが、聞き取りが不得意な学生が苦戦していた。 授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。。韓国語をこの講義で初めて習う学生が大半だが、第2外国語として自分の専門分野に役立つという嬉しい評価を得る事ができた。他にも「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」や「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の設問で高い満足度が見られたが、これは韓国語学習で言語表現の幅が広がったと言えよう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように、第二外国語として目標とていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中学生達から受けた印象はもちろんのこと、到達度自己評価では授業で取り上げる機会が少なかった項目以外は高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	初級の語学という授業の特徴上、学生が意見を述べたり、図書館を利用しリサーチする機会が 少ない。代わりに基礎的な会話の場面を増やし講義を聞くだけではな くコミュニケーションを取る機会を作った。 また毎時間、講義の感想を書いてもらう事で学生の授業へのリクエストに応じるように努めた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして語学以外に「韓国」そのものに興味を持つ学生が増えて、狙って以上の成果を挙げられた。来年度も引き続き学生と関連のある韓国の話題を取り入れながらよい良い成果を挙げたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーション I	2・3・4	前期	選択	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	「異文化間コミュニケーション I」という授業は、選択であるものの、多数の履修生を毎年有する科目である。その一方で、この分野についての専門的な知識を持っている学生はほとんどいないのが現状である。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「意欲関心」「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、他の項目に比べて高得点でなかったことによる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、基礎的な知識の獲得をめざした本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、問題がないと思われる。さらなるアクティブ・ラーニング化をめざして、何ができるのか／何をすべきなのかを、継続的に模索していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本授業を担当することになって5年目であるが、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は向上してきていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習C	1・2・3	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英検の合格に特化した授業であるという特質から、学生全員があげた受講動機は、「資格取得に必要である」であった。英検2級までは、本英語学科の英語の基礎力となるものであるため、できればもっとたくさんの学生に受講してもらいたいものである。(今年度登録者7名)
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	上では全て「どちらとも言えない」と回答したが、その理由は、英検2級合格という究極目標を全員が達成したわけではないからである。7名中合格者は4名であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。ただし、今回の英検で惜しくも不合格で授業の単位も取れなかった学生に対して、再履修させたり、その後の英検の可否についての追加調査をするなど、受講者については全員が遅かれ早かれ合格できるような措置が取れればと思う。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アンケート自体の「授業の質」(1)～(3)の項目で高得点(平均値4、6～5、0)となっている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	登録者7名中、実際の英検の合格者は、4名であった。去年目標とした英作文の指導も今年には十分に行えた。ただし、もっと合格者を出せなかったことは残念である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	James Hicks

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語で話す日本の心 I	3・4	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The first term course focused on providing Tourism Department students with an opportunity to improve their ability to explain Japanese culture to tourists and anyone else interested in learning about Japanese culture. We used the textbook "This Is Japan" (Macmillan), which focuses on traditional aspects of Japanese culture through the experiences of an exchange student and a home stay family.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 4 criteria passive participation 30%, class tasks 23%, class preparation 22%, and a final test 25%). The majority of students received scores in the 80s and 90s.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The skills being practiced (DP5) were both practical and useful. The average student took the opportunity to improve their skill set.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Goals for the next academic year will include more focused class preparation assignments and quizzes to improve student focus. In addition, more preliminary writing practice using the target language should improve the average student's skill level.
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	I am pleased that the two departments each have their own classes it has improved the learning opportunities for all students.
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅰ	2・3・4	前期	選択	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学・言語学入門として、極めて初歩的な内容を扱っているが、それでも本学科学生達にとって、かなり難しい内容と感じる傾向がある。(そもそも「概論」という日本語の意味がわからず、何か難しい内容と思い込んでいる) 従って、Youtubeの映像などを交えて、学生達が興味を持ちそうな切り口からの導入を常に心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この授業に続いて後期には「英語学概論Ⅱ」が開講されているが、受講者の3分の2が継続受講していることから「難しいけれど、面白い」と感じている学生が半数以上いることがうかがえる。 毎回授業の最後にリアクションペーパーを書かせているが、ほぼ常に取り扱うテーマや英語そのものに対する理解が深まった、というコメントが残っている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語学科として当然あるべき授業である。
---	----------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	今年度は、この授業を担当して3年目であり、的確な進め方がわかり始めた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生達は抽象的な説明の連続が苦手なので、練習問題をもっと増やすようにしたい。昨年度よりも今年度は増やしたが、更に増やした方が良いかもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	岩井 朝子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅰ	3・4	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初めて通訳を体験する授業なので、ある程度の緊張感を持たせながら、授業に集中するような雰囲気づくりをするよう努力した。教科書を使うと前もって答えを見たりすることもあるので、授業の資料はその都度渡して授業に集中させるようにした。また、英語⇒日本語訳を主に行い、リスニングに力を入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点で、再試対象は0名で、全員が標準レベルに達していた。知識理解・意欲関心・技能表現においては平均値で4.0を示していた。学習量に関心しては、3分の2の学生は、予習時間・回数が比較的多かったが、残りの学生は0回と反省が求められる。図書館利用に関しては、回答者ほぼ全員が「利用しなかった。」と回答しており、時代の流れから理解できる面もある。学生による授業評価においては、中央値4点で概ね説明等を理解してもらったように思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動議の56.3%が単位取得で、31.3%が関心のある内容だったが、学生も一定以上の成績を取っているものがほとんどで、内容的には妥当であると思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	間違った発言をしたくないという気持ちが強い学生は、発言が限られていた一方で、いつも積極的に授業に参加して発言し、授業を盛り上げてくれる学生も数人いた。グループ討議をすることによって発言もしやすくなると思うので、ペアワークやグループワークを増やし、積極的に授業に参加できる雰囲気を作り、授業の参加を促したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ほとんどの学生が標準以上の成績を収めており、達成面では高い評価ができる。復習にも重きを置き、授業の内容が定着するように指導していきたい。さらに、来年度からはペアワークやグループワークを増やし、学生の授業への参加意識を高めていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門Ⅰ	2	前期	必修	はい	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入を行なった。 ②1冊の絵本と2冊の小説を取り扱い、文学的批評を紹介し、映画の解釈と比較も学生に行わせた。 ③レポートに比重を置いたので、毎回のレポートの採点や、最後に提出するレポートの添削を行った。 ④図書館の多読コーナーへの誘導を行い、学生に読書を促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しくささい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	登録者45名中秀が20名、優が15名、良が3名、可が3名、不可が3名であった。到達度自己評価は(1)～(10)の項目において平均値が3.0～3.5であり、授業中や、確認問題、定期テストの出来などから教師の観察においても、想定内の反応であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、専門基礎科目となるこの講義に置いてどの学生にも教養としての文学の知識や楽しみを教授できたのは良かったと思う。しかしながら、今までの学年には見られない程、一部の学生の授業態度が悪かった。また、アンケートの自由記述からは、ポジティブな反応(「本の内容だけではなくその本の作者の時代背景や一生をも学ぶことができました」「文学を読み英語を解読する楽しさや長文の対応を学ぶことができました」などもたくさんあった一方、「もっと深い内容のことも学んでみたかった」など、レベル的な物足りなさを訴える記述がごくわずか(33コメント中2コメント)であるがあり、大クラスでのレベル設定の難しさを痛感した。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	特にレポート作成などに関しては、図書館の利用を促したものの、45名中利用したと回答したものは11名にとどまったのは残念な結果であった。しかしながら、図書館の本を使つての形式でレポートを課した学生の割合が半分くらいであったため、妥当なデータであるとも言える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標達成や、学習量などにおいては主旨目標は達成されたが、レポートの内容や形式に関する改善点はまだ熟考の余地がある。また授業中に話し合いや発表など学生のグループワークを促す時間もあれば更に良い。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英米文学研究	3・4	前期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①映像教材を媒体に、スクリーンプレイと原作の比較、フェミニズムの研究を行った。 ②授業の7回目に中間テストを期末テストと同じ成績の比重で行い、試験勉強を分割したことで、学生の学習意欲を喚起した。 ③毎回の授業でレポートを課し、自分の力で考える行動を促した。 ④ほとんどの学生にとって選択科目であったが、選択動機には回答者24名中、「関心のある内容である」10名、「単位数を確保する」13名とが多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績分配は、25名中、秀13名、優7名、良3名、可2名であった。秀の中には100点の学生も2名いて、ほとんどの学生が優秀な成績を納めたこととなる。到達度自己評価では(5)の項目の平均値が4.0でそれ以外は、3.8-3.9であった。映像資料の内容が大卒の女子が初めての就職先で奮闘するという内容であっただけに、(9)(10)の項目も平均値が高かった(3.8)。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	映像資料を見たり、スクリーンプレイを読む学生の表情は生き生きとしており、各人の英語レベルに応じての鑑賞を行っていたと思われる。自由記述のコメント欄には、「楽しかった」「入り込みやすい内容」「とても面白かった」「映画で使われる英語を深く知ることができた」など、肯定的な意見が目立った。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書 館、インターネット利用」学生の意見など	レポートの特性から図書館やネットでの検索を促すものではなかった ので、6図書館利用は図書館の利用(1)データベースの検索(2)は利用 したが0名などとなったが、とにかく映像資料とテキストを読み込むこ とが目標であったので問題はないと思う。また毎回の配布資料に女性 学の記事を載せたが、学生は授業の合間に読み、コメントを記してい た。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	毎回スクリーンプレイを精読するのに忙しく、小説版の原作を読む 機会がなかったので、次回は短時間で紹介できるように準備したい と思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
応用ビジネス英語	3・4	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期ビジネス英語入門同様、ビジネスの現場を反映した英語を提供することに重点をおいた。今学期はこれまでと異なり、テキストを使用するのではなく、ハンドアウトを準備して配付という授業スタイルを採用した。また内容についても、「応用」という科目名にふさわしく、ビジネスの中核を担うマーケティングの理論と事例を英語で理解するという形態を初めて導入した。また最新のビジネストレンドやマーケティングが反映された実際の企業のケースなどを掲載した新聞記事なども援用しながら、英語のみならず、ビジネスという分野を多角的にとられられるようにした。くわえて、比較的スピードの速いビジネス英会話の単語ディクテーションなども実施し、よりリアルなビジネス英語を体感してもらうトレーニングも取り入れた。さらに学習した成果が確実に受講生に定着しているかを数値的に確認するために、開講期間中2回小テストを実施した。出欠に関しては、ルールを前期同様初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。また、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度(発表)による平常点が消滅するおそれがあるなど、平素の学習意欲や態度が成績評価に直結する点も再度周知徹底した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	入門クラスと同じように、まず出席したうえでの授業貢献度(配点:20点)という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行った結果、非常に有効だった。発言の順番などの指名に関しては、特定の学生に偏向しないように注意をしたが、前期よりも受講人数が少なかったことも奏功して、毎回学生全員が何らかの形で発言をしたため、この項目の平均値は設定値を超えた21.8点だった。これは1名が1回休んだだけで、残りは全員無遅刻・無欠席であったことも関係している。小テスト(配点:15+15=30点)に関しては、前期よりも授業の難易度が上がったにもかかわらず、1回目の平均値が12.5、2回目は10.4という結果であった。定期試験(配点:50点)に関しては、学生間で得点格差が多少あったが、全体的にはおおむね良好な結果になったと考えている(50点満点換算で平均値37.85)。これらの客観的データから判断して、教育目標は達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ビジネス英語においては、業種・職種にかかわらず共通して必要な単語が数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた。(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、などの項目において、ほぼ全員が「そうだと思う」の項目を選択していることから、内容的に妥当であると考えられる。またビジネス英語そのものに関して、自由記述の意見として、「ビジネス英語を通してスピードの速い英語の聞き取りが違って良かった」という記述があり、初めて導入した項目が、学生に好意的に受け取られていたことがわかった点も大きな成果のひとつといえる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数の少ないクラスだったので、学生との距離が短く、授業を進めるうえで、確認や意見交換などコミュニケーションのやりとりを非常にスムーズにすすめることができたと考えている。授業の質評価におけるすべての項目で、ほぼ全員が「そうだと思う」という評価を行っていた点からもそのように判断している。学習量の評価において、全員が予習復習をしていたものの、記録作成や自発的学習において、受講者間のばらつきが散見された。学習の記録については、開講日に授業専用ノートを必ず準備し、単語の下調べなど予習の成果、英文の和訳などは、すべてノートに記録するように指導していたので、その指導が文字通り隅々まで行き届いていなかった。今後は少人数クラスという授業環境に甘んじることなく、受講者ひとりひとりの表情や学習姿勢などに対して、よりきめ細かいフォローアップを励行していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	DP1知識理解に対する評価をほぼ全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標はおおむね達成できたと考えている。ただし、前述のとおり、少人数クラスに陥りがちな過信には十分注意を払う必要があることを再認識した。当然のことながら、受講生は毎期変わるもので、先期までの方法がそのまま有効に作用することはないので、常に授業も進化・改善を図らなければならないと感じている。本科目は選択科目で3年生以上が受講し、これまで比較的英語力の高い学生が受講していたこともあり、当然できるだろうという盲信があった点は否定できない。このような点を改善するための措置として、開講の半ば(第7回もしくは第8回目の授業前後)で、ミッドターム・アンケートを実施し、セメスター後半の授業で活かすことも検討したい。またそうした取り組みを次年度の授業にも有機的につながるように心がけたいと考えている。指名スタイルについては、おおむね評価が良好なので、指名の方法やルールづくりを明文化するなどして周知徹底を行い、学生の学修ニーズやモチベーションキープに結びつくような授業準備および授業展開を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
欧米文化交流研修B	1・2・3・4	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は海外で語学研修やホームステイを体験することが最終目的であることがはっきりしているため、それを前提として、基本的に英語で授業を進めることにした。通常その試みは上手く進まないことが多いが、この授業に関しては学生達もその理由をしっかりと理解していたので、そのとおり進めることができた。しかし、学生達の発言は、日本語でOKとした。そうしなければ学生達の負担が大きすぎるからである。 授業内容は、カナダの歴史・文化・生活などの他、海外渡航経験が初めての学生のことを考慮して、搭乗手続き・機内での英語アナウンス・出入国手続きなどについての学習も取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	アンケート結果での満足度が高い。 研修中の学生達が、極めて充実した様子であった。 帰国後、授業ではないのに、事後報告会を開いたが全員が気持ちよく参加し、研修の成果をわかしあっていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	極めて妥当。学生時代に3週間程度の短期語学研修を経験し、海外を経験することは貴重である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度の進め方を踏襲できれば十分である。
---	-----------------------------

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学部内の問題ではあるが、欧米文化交流の授業は英語学科が毎年担当すべきである。組み合わせとなっているアジア文化交流は観光文化学科が毎年担当するのが良い。観光文化学科はどの国であれ観光研修に出かけることに意味があると思うが、英語学科としては、英語圏以外に引率することに意味が見出せない。そうした立場の違いを検討することなく、「なんとなく」隔年交代で担当するように決めてしまったようなので、改めるべきだと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎演習Ⅱ	2	前期	必修	はい	43

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生で身につけた大学での学習に必要な学ぶ技術を駆使し実践を行なった。 ②パソコンのパワポの技術を更に進化させるべく、表作成などの課題を課した。 ③学生の自発的活動を促すべく、2回目のプレゼンでは、学生自身から課題を話し合っ決定させるなどした。 ④引き続きマナーを重視し、女子大生としての品格を上げるべく、学生同士で啓発しあうことを促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価、授業の質評価においてはすべての項目が、平均値3.5-3.7であり、大して高評価でも悪評価でもなく、全体的に「まあまあそうだと思う」と感じた学生が多かったことがわかる。これらの学生の満足度と教師から見た学生の達成度に関する評価も同じ感じである。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自由記述欄にはグループやチームワークの難しさを指摘した意見がたくさんみられた。残念ながら、自分のチームのプレゼンの日に突然欠席したり、頑張ろうとする学生の足を引っ張るものが何名かいた。更にプレゼンの内容について教師が目標としている内容に到達しているものは少なかった。パワポやプレゼンの仕方などの表面的な技量は、一年生からの基礎演習と合わせて飛躍的に上達したので、次年度は内容の深化とチームワークの精神が軽薄な学生も、特に指導していきたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	基礎演習の完結編であるこの授業では、学生の自主性を重視して、プレゼンのテーマから、グループ編成の仕方、座席まで全て学生主導で学生たちが考えて行っ た。グループワークの経験を積む機会を提供できたのは良かったと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	プレゼンテーションでは図書館の本を利用するように指示したつもりであるが、「図書館の図書・雑誌の利用」は19名が利用しなかった(利用した14名)。一方、イン ターネットを利用した学生は20名(利用しなかった13名)であった。来年は全員を図書館に誘導するなど、利用につなげたい。しかしながら全員提出のレポートでは 図書館の本を参考文献に入れるように指示しているので、実際の利用者は(アンケート時点で忘れていても)もう少しいたのではと思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよくくんで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のものであった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、シラバスを一部変更した。第6回の「教師の倫理」を削り、「教師の服務Ⅱ」として教師の勤務時間の問題を検証した。また、2016年度には子どもの貧困問題を採りあげてみたが、教職の携わる範囲を超えているため、今回は視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせた。 ②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。 ③記述式の問題によるふりかえりをやめ、小論文形式に変更してふり返りの質を深めることとした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価の平均値は80.14であり、理想的レベル(80点以上)を上まわっている。学生の到達度自己評価の平均値は3.9～4.1とかなり高かった。殊に「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」と「職業選択の参考になった」でそれぞれ明が「かなりそうだと思う」に記入していたのは驚きである。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」で看護学科0/14、福祉学科1/27、栄養学科0/13に対し、英語学科は7/14であり、「職業選択の参考になった」では看護学科3/14、福祉学科7/27、栄養学科1/13であるのに英語学科は7/14(半数)が「かなりそう思う」に記入しているのは特徴的である。このことを如何に理解すべきか。困惑している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見て真内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好であることから、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの妥当性 成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。 ③まとめ 移譲から内容的妥当性には問題がない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について学生の平均値は3.7～3.9と安定してその辺りにま とまっている。但し、どの項目にも1ないし2名の「少しそうでないと思 う」学生がいるので全般的に授業の改善が必要であろう。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生はよく勉強していたというのが実感であるが、シラバスの見直しや よりわかりやすい講義を旨とする改善が必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康科学	1・2・3・4	前期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握させることに重点を置いた。 受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が13.6% (昨年21%)で、その他は「単位数の確保」と答えた者が81.8% (昨年44%)、「資格に必要」と答えた学生が9.1% (昨年29%)で、9割の学生は興味が充分でないにも関わらず受講していた。文系学科において健康等に関心のある学生が増えたことは望ましい。 健康に情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。 授業計画では小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストは1週間以内に採点結果を各学生に示した。学生は小テストに出る問題を推測しながら予習をして授業に参加するようになり、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、小テストのための復習をすることが当たり前のこととして定着していったように感じられた。それは1度目の小テストが終了した頃からクラス全体に予習復習が態度として表れたと感じられた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79点(昨年73点)であり、再試対象は2名(昨年2名)であった。ほぼ全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したと思う者は9名(昨年15名)と、問題の難易度から言って予想以上に高いと考える。 「目標達成できた」と答えた学生総数は24人(25人中)で、学生の達成感と満足感は良好と考える。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は24人(96%)、「事象理解の視点を得た」と思う者は25名、「課題検討力」を得た者24名、「判断力を得た」24名、「学習意欲が得られた」22名、「必要技能を得た」23名、「表現力の向上」19名、「倫理規範獲得」23名、「職業選択の参考」21名と高い自己評価を持てることができたと考える。思考判断に関する質問で、意欲関心が高値を示しことから、英語学科の学生に取り、新鮮な知識として受け取られている様に思われる。 今後、関心と成果のギャップを埋めるよう、授業目標の達成度の程度を高めるような方法を取り入れたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には文系の学生にも妥当な内容であったと考える。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から、方法的妥当性は十分あったと思われる。 ③「受講動機」が曖昧な学生が多かったが、「学習到達度の自己評価」は十分得られ、英語科の学生に妥当な内容であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、予習を全くしなかった者が8名(25名中)と予想より多かった。シラバスを参考にしなかった者が15名(25名中)、授業計画を立てなかった者13名、図書館、データベース、インターネットの利用者は25名と100%であった。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 配布物に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。
-------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅰ	1・2・3・4	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実践、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であり、受講放棄者は3名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは21名と予想以上に多かった。 受講動機は「資格取得に必要」の学生が42.9%(全30名中)、「単位数確保」は46.4%であった。しかし「関心がある」学生は僅か25%であった。 目標達成できたと答えた総数は28人(30人中)で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は30人、「事象理解の視点を得た」と思う者は28名、「課題検討力」を得た者28名、「判断力を得た」28名、「学習意欲が得られた」28名、「必要技能を得た」28名、「表現力の向上」28名、「倫理規範獲得」29名、「職業選択の参考」24名といずれも高い自己評価を持たすことができたと考え。 欠席する者は多くなく全員が積極的に受講していたと考える。今後、関心度に関わる数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目やその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。 学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極 的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持て るような動機付けができるようにさらに改善したい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代と教育	1・2・3・4	前期	選択	はい	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機の80%が単位数の確保であり、これは例年に比べやや少ない。また、興味があるものが25%でこれはかなり少なくなっている。教養科目であるため特定の資格取得に向けた知識技術の習得を目的としていないので、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。 そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は87.2点(昨年度60.5点)、不合格者は1名(昨年度の合格率は66%)であった。設定した平均点は70点であったが、十分に到達できた。合格者のうち、秀が45%(昨年度は1名)であり、優は25%(昨年度は0)であった。昨年度と比較して、非常に優秀な成績であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今回の好成績については事前に予測することができなかった。振り返ってみれば受講態度などが例年と比較して良好であること、授業内容に対する反応がよいことが挙げられる。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解をするよう促した点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。その上での好成績という結果は、学生がある程度授業に集中してくれたことが原因だろう。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	木沢 誠名

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
航空ビジネス研究	3・4	前期	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	航空産業のしくみ、課題などを総合的に教授した。なかでも実生活で学生が興味を持つテーマである「格安航空券」や「LCC」は、特別な「章」を設けて講義した。しかし、社会なテーマである「空港間競争」や「航空政策」などは、理解も深くなく、興味も薄いようであった。職業的興味喚起で、「キャビンアテンダント」や「グランドスタッフ」についてはDVD(テレビ番組から)を見せた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・毎回の授業で提出する「コメントカード」で明らか。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当と考える。
---	----------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書 館、インターネット利用」学生の意見など	特になし。授業中に、観光文化学科と同じく、学生生活の送り方や社会貢 献、就職などの話をする。その際、他大学のことや他学科のことを引き合 いに出して鼓舞するのだが、これまでは、どうも英語学科の学生はこれを受容しようとしなかつた。学科と学生の特性であろう。しかし重要な視点であり、英語学科長の話では、平素 そういった話題を提起する教員がおらず、刺激を受けているのであろう、とのことであった。そこで、今期は表現を和らげてみたところ、不満との評価はなくなった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	前述のように、身近なテーマには興味を示すが、社会的テーマには示さない。学生のレベルに合わせて専門学校的な内容にして満足度を高めるか、それとも、大学らしい学問的、社会的レベルに引き上げる努力をして「不満足」を許容するか悩ましい。ちなみに、観光文化学科は、ほとんど同じ内容の「航空産業論」があるが、こういった矛盾はほとんどなく、学生に受容されている。幸い、今期は優しい表現を用いたところ、自由記述において不満はなかった。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	1・2・3・4	前期	選択	はい	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義を受ける学生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうこと死している。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	多人数の講義だったがこれに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「ためになり、わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートに記入された受講動機や自由記述を概観すると「心理学的なことに興味を持っている」「人間行動の不思議を知りたい」「人の心を理解するために必要」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アンケートにあった講義中の「汚い言葉の使用を控えてほしい」についてはもっともである。授業の進め方と改善課題については大きな反省としたい。私語学生に 対する言葉がきつすぎたと反省している。コミュニケーションの話を学生にすることが多いが、自分の授業が対話式のコミュニケーションを図っているかという 点、どちらかというと一方に偏りがちであった。これは質問を投げかけてもなかなかそれに答える学生がいないことにも起因しているが、それでもやはり ツーウェイの授業を実現する努力をはかりたいと思う。上品な日武力的な言葉使いは今後の大きな改善課題である。努力を継続したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	講義の道は経験は多いけれど、今年度の達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートだと思う。授業者の体調、意欲、 内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。 しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。おいしい料理を食べたときと同じ顔になると経験的に思っている。 本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際ビジネス論	3・4	前期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・貿易、投資など国際ビジネスの諸事象の実務的な仕組みを理解させること、最新の動向に関する情報を提供し理解させることに重きを置いた。また、国内外のビジネスシーンでよく使われる用語を多く説明し、理解してもらえるように努めた。就職活動でも役立ててもらいたい、また、社会人になってからの土台となる知識となつてほしい、との狙いもある。 ・用語（例えば、「入札」「合併会社」など）は、学生にとって初めて耳にするものが多いこと、あるいは、聞いたことはあるがどういう意味か知らないことが多いことから、事例や図を使って、それらに馴染むように努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・授業評価において、「自分なりの目標を達成できた」が英語学科3.0、観光文化学科3.0なので（両学科とも昨年度とほぼ同水準）、「全体を通して」については、後述の成績評価も加味して、「やや達成」とした。「知識を新たに得ることができた」が英語学科3.3、（2016年度3.2）、観光文化学科3.2（2016年度3.1）、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」が英語学科3.1（2016年度3.2）、観光文化学科3.2（2016年度3.0）、以上から「知識理解」を上記とした。「学ぼうとしている専門分野において判断する力を得ることができた」については、英語学科3.1（2016年度3.9）、観光文化学科3.0（2016年度2.9）、ここから思考判断を上記の通りとした。「学びを深めたいと意欲」については、英語学科3.1（2016年度3.0）、観光文化学科3.0（2016年度3.1）であることから、「意欲関心」を上記とした。上記の通り、英語学科学生の到達度自己評価は観光文化学科学生とほぼ同じ水準である（2016年度は英語学科の方が上回った）。しかし、受講動機について、英語学科は27.6%が「関心のある内容である」のに対して、観光文化学科のそれは28.6%であり、あまり差はないものの、観光文化学科学生の方が若干前向きに取り組んでいた模様である。恐らく、この受講動機が、両学科の成績の差に出たのではないと思う。すなわち、総合点平均は英語学科72.4点（34名）、観光文化学科 75.3点（54名）であった。詳細は省略するが、これは2016年度、成績も受講動機も英語学科の方がよかったことからの逆転となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「ビジネスの領域についての幅広い理解と知識」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および上記の学生の目標達成状況、学生の一定の成績実績から、内容的にはほぼ妥当と思料する。なお、本科目より後期「多国籍企業」の方が難しくなく（テーマ性があり）面白いとの学生の見方があるが、本科目「国際ビジネス論」は、国内外のビジネスの基礎的な諸事項の仕組みや理屈などに関する基本的な知識、社会に出てから必要とされる知識・考え方を伝えることに重きを置いているので、内容的には続けて参りたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	・学生からは厳しい批判を受け取った。「早口になるのが聞き取りにくい」について、引き続き意識しながら改善に努めたい。「配付資料が多すぎて理解しづらい」「文字が多すぎます。もう少し短くわかりやすくできないのでしょうか」について、極力図による解説も増やすようにしているが、さらに増やしていきたい。また、重要性の低い部分は削除しているが、さらに心がけたい。一方、舌足らずにならないように十分な説明をしたいと思い、新聞記事の事例などはカットすると分かり難くなると思って長い文を載せているが、穴埋めや下線による強調をしているので、理解してほしいところではある。折に触れて、ここは大事な箇所なので、カラーマークして、などと伝えている。また、大学生なので、じっくり文字の解説も読んでおいてほしい、という気持ちもある。いずれにしても、わかりやすく、箇条書きでの説明、図や写真などを増やしていくことにしたい。「特定の人しか注意せず、差別だと思います」については、いつも後ろの方の席で(横を向いている仲間等とともに)私語している数人が目立つので、そして、周りの学生たちに迷惑をかけていると思うので、受講態度を改めてほしいと思い、2～3回注意した覚えがある。「差別」は当てはまらないと思う。 「説明の仕方がむずかしかった」の声は、授業期間中のアンケートでも伝わってきたので、翌週のQ&Aの時間に補足説明してきた積りである。初めて聞く馴染みのない用語、考え方だから、やはり難しいと感じたのであろうが、重要な用語にカラーマークしたり、予習・復習するなりして、理解できるようにしてほしい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題は引き続き、分かり易い説明の強化であろう。重視している「説明は理解しやすいものであった」は、英語学科2.8と2016年度2.8から改善していない(観光文化学科も同じく2.8と2016年度の2.8から改善していない)。これが課題であろう。以前、観光文化学科の学生から、「国際ビジネス論」は難しい、「多国籍企業論」の方が分かり易い、とのコメントを受けたことがあったが、恐らく後者ではストーリー性があるのに対して、前者(本科目)では多くの知識を伝えたいと思っているので、学生にとって馴染みのない事柄が多くとっつきにくい、理解しにくいということかもしれない。成績については、前述の通り、英語学科は2016年度よりかなり低下した(観光文化学科では若干良化した)。従って、国際ビジネスの知識の必要性を認識してもらい、学生の関心を高めながら、学生の理解度を高める努力をさらに続けていきたい。
-----------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	須藤 秀夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
国際経済入門	2・3・4	前期	選択	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・大切にしていることは、①学生が国際経済の事象に関心をもつこと、従って、国際経済に関する記事に目が行くようになること、②今年起きている国際経済の出来事や最新のデータを示しつつ、どういう意味を持つのか理解させること、などである。 ・授業計画では、広く国際経済の諸事象を取り上げ、関心をもつこと、学ぼうとすることのきっかけを作ろうとした。特に、外国為替の部分、貿易政策の部分はポイントとなる旨伝えた。授業準備では最新の新聞報道などの情報やデータを伝えることに努めた。 今年は1月に米国のトランプ新政権がTPP(環太平洋戦略的経済パートナーシップ)から離脱するといった大きな出来事が起き、日本への影響もあることを示したことなどから、学生の国際経済への関心が少し高まった感があり、望ましいことであった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・学生の「自分なりの目標達成」は英語学科3.4、観光文化学科3.2とますます(昨年度と両学科ともほぼ同水準)であり、「やや達成された」と考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は英語学科3.4、観光文化学科3.7であり、また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は英語学科3.4、観光文化学科3.6であり、知識理解は「やや達成された」と考える。「的確に判断する力を得ることができた」は英語学科3.4、観光文化学科3.6であり、同様に思考判断は「やや達成された」。「学びを深めたいと意欲をもつことができた」は、英語学科3.3、観光文化学科3.3であり、また、「職業選択の参考になった」は英語学科3.3、観光文化学科3.3であり、この辺りから、意欲関心は「やや達成された」。 態度(DP-4)には「国際社会の一員として自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる」「自分の持つ能力や知識を国際社会…の発展に役立てる方法を考え、実行できる」が含まれるが、「的確に判断する力を得ることができた」3.3、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」3.3、「職業倫理や行動規範(守るべきルールなど)」について学ぶことができた3.3から、「やや達成できた」と考える。 ・全体を通して、成績評価総合点の平均は、英語学科70.96点、観光文化学科75.29点であり、この平均点の水準からも、「やや達成された」と言える。なお、両学科合同の授業であったが、上記の通り、英語学科の平均成績が観光文化学科よりも下回った。これは、昨年度2016年度前期からは2学科が逆転したことを示している。この両学科の平均成績の対比は、上述の「知識」の新たな修得や「理解する視点」において、英語学科の方が観光文化学科を若干下回ったことを反映している模様である。また、それ以上に、「関心のある内容である」ので受講したという学生が、英語学科は26.9%なのに対して、観光文化学科は55.6%とより前向きに受講していたことが大きいであろう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	人文学部と両学科のDPにて、「社会科学の特定の専門分野における基礎的知識と運用能力」、「社会科学の特定の学問領域において、的確な考察および判断」、「国際的視野」「現代社会の諸問題」「社会人としての基礎的な学力」「現代社会の実態を学際的な視点でとらえる能力」等が言及されているが、本科目はこれらのDP実現に資すると考える。この点、および学生の上記到達度自己評価、上記の学生の一定の成績から、内容的には妥当と思考する。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・国際経済の理論より実際に起きている事象の理解に重きをおき、教材に多くの写真を載せて学生の関心を引きたいと思っているが、一方、初めて経済を学ぶ学生が多いことから、理論・理屈についても十分説明して理解を向上させるようにもっと努める必要があるとは感じる(例えば、インフレの国の通貨は何故安くなるのか等)。「むずかしい」との学生コメントが授業中のアンケートで示され、質問票に丁寧に答えることで対応してきた。授業評価では「説明が早くてわからなかった」との感想も寄せられており、「説明は理解しやすい」が英語学科3.3(昨年度2016年度3.5)、観光文化学科3.0(昨年度2.8)となつて、昨年度並みであったが、引き続き、質問票への丁寧な回答、授業中での学生を指名してのやり取りなどを通して、分かり易い説明をさらに心がけて参りたい。大事な言葉をゆっくり話す、教材の「穴埋め」部分を繰り返し言う、図や絵をもっと多用して解説する、わかり易い事例を使つての補足説明をもっと多くする、といったことを心掛けたい。 ・学生からの意見に「レポートの合格基準が厳しい。英語の勉強をしに来ているから、もう少し大目に見てほしい」というのがあったが、やや受け入れにくいものがある。レポート課題は、最近の国際経済に関する新聞記事を読んで、新しく知ったこと、および、考えたことを記して下さいというもの。書いてくれた学生が該当するかは不明だが、数名の英語学科学生は、新聞を拾つて読むことなく、勝手にどこかから持ってきたテキスト的な知識を書いて済ませているだけであり、ニュース記事が伝えている今日的な現実を目を向けていない様子が窺えた。英語学科の教育目的である「国際的視野…に立つて思考」する人材を育成する上でも、こうした課題に取り組む必要はあるので、指摘した学生はむしろ取り組み姿勢を改めてほしい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・総括的には、英語学科学生からの評価は昨年度並みであり、良化しているとは言えないと認識しているので、また、上述の通り英語学科学生の成績の低下が見られたので、さらに改善するように取り組んで参りたい。特に、上記6の課題、すなわち、分かりやすい説明の必要性は認識しているので、初めて経済、国際経済を学ぶ学生に親しんでもらえるように、経済って面白いと思ってもらえるように引き続き取り組んで参りたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語研究Ⅰ	3・4	前期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は昨年度初めて設置された科目で、応用時事英語からさらに発展させた内容という位置づけである。研究というタイトルが付与されている点を踏まえて、これまでの時事英語入門や応用時事英語のように単に英語を習得するだけでなく、学習した内容について日本語および英語で意見や考えを発表し、それらを受講者全員で共有できる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	達成された	どちらともいえない	やや達成されなかった
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、2回実施した小テストの平均点が、1回目:15点満点中10.5、2回目:15点満点中8.4とダウンしている点から、ターム期間中の教育目標としてはやや達成されなかった。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中19.1という平均値が出ている。これは受講者全員が自主的に何らかの発言をした結果であり、クラス全体の活性化にも一助にもなったとみなしている。その一方で、発表や指名に関するルールが必ずしも徹底されていなかったために、一部の受講者との間でコミュニケーションギャップが生じることがあった。昨年に比べると、受講者が大幅に増えたこともあり、クラス全体をコントロールしようという意識が強すぎたかもしれない。特に毎回全員に最低1回は指名というポリシーに執着しすぎた点も否めず、その点は改善策を含めて反省しなければならない点であり、受講者全員の満足度アップなどを図るうえでも今後の課題といえる。定期試験については、50点満点で平均が34.0と素素の小テストに比べて改善しており、中には高得点を獲得した学生もいた。そのことが、全体的な評価の底上げにつながった(総合評価の平均点:89.1)。この最終結果も踏まえて、教育目標はやや達成されたという結論に至った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	時事的分野は、普段学生がふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。今回の受講生は、昨年と比べて、本科目の下位に位置する時事英語入門や応用時事英語をすでに学修済みという学生が少なく、受講人数が大幅に増えたため、クラス全体を集中させる点に多少苦勞し、昨年の時事英語に対する知識や知見を十二分に活かすことができなかった。内容に対するディスカッションや意見交換もある程度は行ったが、発表者が偏向していた点も否定できない。積極的な発言は、時として私語や雑談に陥るリスクもはらんでいる。クラスの雰囲気や特徴を早い段階で把握して、必要に応じて軌道修正を図っていく柔軟性を今後の授業で採用していきたい。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、ほぼ全員(2名を除く)が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性はほぼ確保されていると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。	ターム期間中に2回実施した小テストの正答率が低かった点が懸念材料である。理由は明らかで、これまでの時事系科目よりも難易度が上がったためである。その反面、定期試験の結果は改善した。学生が復習をしっかりと行って試験対策を講じたからであろう。今後の課題としては、試験前に復習の時間を意識して創出し、学習した内容の理解・定着強化を図ることもひとつの改善策と考えている。「授業の進みがおそい」というコメントも寄せられていた。意見を聞いたり、内容についての補足などが多かった結果、スピードが遅くなったと感じたのではないと思う。これまでは、授業進度のスピードが早いという意見が記載されたことはあったが、その逆は初めてだった。あらためて円滑に授業を進めることの難しさを実感した。また、「態度が顕著に表れていたのが気になった」というコメントも書かれていた。指名についてのルールが原因と考えられる。「指名された本人と教員とがやりとりをするので、周囲から答を伝えるなどの助け舟を出さない」「質問されて周りに安易に助けを求めない」というルールである。これが守られていないと判断した結果、私語とみなして注意をしたことがあった。それでもこのようなコメントが書かれていた点は真摯に受け止めて、改善策を講じる必要性を感じている。今年度は昨年とちがいが、受講者数の多さとクラスの雰囲気のちがいなどに困惑することがあり、クラス全体を管理することに執着しすぎていた。時事英語の最上位科目という枠にとらわれすぎていた点も否めない。他の科目同様、受講者の理解度や達成度を適宜確認しながら、授業を進めていかなければならないと認識している。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、ほぼ全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門および応用時事英語で学習した成果を発展的レベルにまで上げるという目標はおおむね達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、適宜復習する時間を設け、小テストの高得点化を目指したい。くわえて、学生間の意見交換やペアワークなどのアクティビティをより多く取り入れ、英語での自己発信を積極的にサポートできるような体制も今後構築していきたい。
-----------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
時事英語入門	2・3・4	前期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	時事という分野は、難解なイメージが伴いがちである。そうした点を払拭するために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた英文記事の背景知識にも言及し、それらを日本語で説明することで、内容自体にも学生が興味・関心をもてるように心がけた。そのために、できるだけ新しい内容のニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事的事項にふれる機会を意識的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。リーディングに関しては、入門というクラスの性質上、比較的短い分量の記事を1回の授業で2～3本読ませ、授業時間内に単語の反復練習を実施して、内容の理解と記憶の定着を図った。リスニングに関しては、ディクテーションスタイルを採用し、放送される英文の速度を2段階に分けることで、正しい単語の聴き取りを徹底した。昨年に比べて受講者数が半分以下になったため、個々の学生の理解度をある程度把握することができた。くわえて、90分の授業中に学生1人に対して複数回指名する機会ができたので、より双方向性の高い授業を展開することもできた。昨年よりも学生とスムーズなコミュニケーションが図れたと考えている。その反面、学生数名に無断欠席が散見された点が残念であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1の知識理解に関しては、2回実施した小テストの平均点が、1回目:15点満点中11.9、2回目:15点満点中12.1と、それぞれ高得点を結果として出している点から、教育目標は達成されたと理解している。また、積極的に授業に参加・貢献している点を評価する授業貢献度の項目においては、20点満点中14.8という平均値が出ている。これは一部の学生に遅刻や欠席が散見されたものの、出席時には指示されたタスクに熱心に取り組んだ成果である。そのことが小テストの結果にも反映されたものと思われる。定期試験については、50点満点で平均が24.84で5割程度の正答率であったが、平素の高得点が結果的に総合得点の底上げにつながった(総合評価の平均点:80.9)。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	事事的分野は、普段学生が意識しないとふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずは記事の背景を含めた内容の理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、ほぼ全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年同様、定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。毎回短い記事を大量に読んだために、欠席や遅刻をするとその分の内容理解がおろそかになるため、それが原因で結果的に定期試験の得点低下を招いたと思われる。定期試験の答案をあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっているという答案パターンが多かった。この点に関しては、試験前に復習などの時間を創出し、あらためて学習した内容の理解・定着強化を図るべきであった。今後の課題として、欠席した場合のフォローアップを教員サイドからより積極的に行うようにしたいと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、ほぼ全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語にまずは慣れ親しむという入門レベルの目標は達成できたと思われる。実際、自由記述においても、「すごくためになる授業だった」「今まで受けた大学での英語の授業で1番面白かった」など好意的な意見が記入されていた。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設けるようにしたい。特に、最終授業日は内容確認などの復習に割り当てるなど、柔軟な授業展開行うことも今後積極的に検討していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
宗教と人間	1・2・3・4	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「学生の授業評価アンケート」により受講生を見ると、受講動機は「単位数確保」が77.78%で、「関心」が5022.22%であった。受講生には、キリスト教以外の宗教に関する知識や理解は概してないのが現実である。そこで、宗教が人間にもたらす豊かさを説明し、宗教を学ぶ意義を明らかにした後で、日本における代表的な宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教を時代順に説明し、その上で、イスラム教を取り上げることとした。②授業毎に、受講生が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを取り入れ、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③クラス自体は25人の構成であったので、関心をもてるように折々に対話形式とし質問を引き出し答える形で進行することにした。④身近な学習となるように中間的まとめとして、宗教の映像を用い、それまで学んだことと実際の生活とがどのように結びつくかを自ら考え確認することができるように計画した。⑤期末試験では、その準備の過程で、受講生が宗教に関して知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を見ると、平均値は81.7点であり、再試対象は0名であった。分布的には90点以上が3名、89～80点が2名、79～70点が5名、69～60点が0名であった。55.56%が理想的レベル(概ね80点以上)に達した。これは、受講生が25名という構成であったことから、知識習得と理解の可否を出来るだけ口頭で確認し、質問に答える時も全員が知識を確認し理解を深めることになる工夫を心掛け、学生も関心をもち授業を受け十分な準備をして試験に臨むことができた結果であると評価できよう。②学生の達成自己評価を見ると、否定的な回答は、「少し」という回答が1人ずつ、専門分野の＜判断する力＞＜技術＞、それと＜職業選択＞にあった。＜コミュニケーション、表現力＞では、「少し、全く」が1人ずつあった。全員が肯定的回答をしている事項は、「かなり、わりに、まあまあ」の順に、＜知識習得＞が「1, 4, 5」であり、＜理解＞が「1, 4, 4」であった。それに、専門分野の＜検討する力＞の「1, 3, 6」と＜意欲＞の「0, 3, 7」、さらに＜倫理規範＞の「0, 3, 7」であった。つまり、＜知識＞＜理解＞では肯定的回答しかない。専門分野でも、＜検討する力＞＜意欲＞でも同様である。②肝心な達成感である＜自分なりの目標を達成した＞が「1, 3, 6」であった。③以上の目標達成状況を見ると、全体的に達成されていると言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超えた学習上、その根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。「若者の宗教離れ」という現代に、神道、仏教、キリスト教、イスラム教という日常的にそれほど接触しない様々な宗教を21世紀の生身の人間と関連させて理解する関心を、学生が15回の授業のすべてにおいて「かなりそうだ」「わりにそうだと思う」「まあまあそうだ」という程度に維持することは大変なことである。全員が＜自分なりの目標を達成した＞と自己評価出来たということに鑑み、内容的には妥当であったと考える。②DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価を見ると、国際的視野と地域的視野に立つて行動するための豊かな教養と幅広い知識の習得による＜知識＞＜理解＞には100%の肯定的回答がなされている。また、専門分野における現代社会の諸問題についての適切な対応を可能にする＜検討する力＞も100%、＜判断する力＞も90%、世界文化への関心・理解の＜意欲＞も100%、グローバル社会に協同する姿勢を重視する＜規範習得＞も100%の肯定回答がなされており、また多元的価値観に相応しい＜技術・表現＞の事項につき肯定的回答は80%であった。ことから、DPの位置づけとしても内容的に妥当であったと考える。③以上から、内容的には問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の担当教員への意見は2件で、「有難うございました」と、「良い先生だったし授業も面白かった」というものであった。テキストには、神道に関しては『記紀』の他に上田賢治等の著作、仏教では中村元等の著作というように、学問的に一般的な教材を扱った。②学習量の評価をみると、予復習に＜1回30分以上＞を実施した学生は、6回の学生が予習に1名、1回以上実施した学生は各7名ずつで77.78%であった。授業の質評価を見ると、いずれの事項も肯定的回答が100%であった。③ 以上を踏まえるとき、授業の進め方は適切であったと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①授業準備として、若者の宗教離れで宗教が身近でないことから、一層身近な事柄に翻訳して講義する必要がある。また、評価基準と課題は、最初に明示するだけでなく、今後も折々に喚起し明示する必要がある。② 総合人間科学の1つの科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得ることにある。「学生の授業評価アンケート」に今後も肯定的回答が多くなるようにするには、＜知識＞が習得されたことを確認しながら進めることが必要である。特に新しい知識の習得に当たってはその確認が一層重要である。それには＜参加の機会＞＜質問に答える機会＞が提供されていると学生が意識でき活用できるようにすることが重要であり必要である。③ 以上から、内容は妥当であり、方法論としては、今後も明示と整理と確認の作業を繰り返すこと、身近なことに翻訳すること、参加の機会と質問に答える機会を活用できるようにすることが、今後の課題と思われる。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育入門	3・4	前期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 教職課程を履修している学生とそうでない学生では、背景知識に若干隔たりがあることが考えられるので、教育学や教育心理学などを学修したことがない学生でも理解できるように、専門用語の使用等については配慮した。また、教職課程を履修している学生には既習のことで、解説をするなどして、すべての学生が講義の内容を理解できるよう気をつけた。 ② ほぼ毎回、学修したことを確認するための課題を提出してもらい、学生の理解を深めるとともに、学修状況を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81点で、ほとんどの学生が標準的レベルに達し、再試対象者はいなかった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達しており、到達度自己評価については、平均値は3.5から3.6、中央値はすべての項目において4.0であった。一方で、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」という質問にはおよそ半数の学生が「0回」と回答していたり、図書館などを利用した学生が少数しかいなかったことから、学生の意欲や関心、態度を高めることについては十分ではなかったと言えるであろう。発展的な学習について示唆したりするなど今後、授業における工夫を検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から学生の達成度に若干の開きが見られたが、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、どの項目についても「まあまあそうだと思う」「わりに そうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、また、どの項目につい ても平均値が3.7、中央値が4.0であり、ある程度肯定的に受け止められていると 思われる。一方で、「かなりそうだと思う」と回答した学生はどの項目につい ても1割程度しかおらず、改善の余地が大いにあると考える。今後検討したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	半数近くの学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業選 択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディネスや 動機付けに大きな開きがあり、授業運営が難しい面があるが、ほとんどの 学生は一定の成績を収めていることから、目標は概ね達成できた。しかしな がら、学習時間の確保については、課題を工夫するなどしたが、十分ではな かったため、来年度以降も検討していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	江田 康子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
職業選択と能力開発	3・4	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は「関心がある内容である」が55%であり、モチベーションを高める為、リクナビ・マイナビを使いテーマを決めレポートを提出させた。 ②企業研究は、企業研究の見方、考え方、知識を就職活動中の4年生には必要且つ実践的に伝えた。3年生は来年の就職活動を踏まえ、企業研究の発表をさせた。同じ業種の企業の発表にならによりに学生と調整をした。また他の企業にも興味を持つように工夫した。 ③昨年度3年生から、4年生の就活をテーマに質疑応答の時間を取って欲しいと要望があり、本年度は十分時間を取った。 ④昨年度グループ討議が1回、本年度は2回実施した。討議の時間を充分取れるように配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①学生評価アンケートに「学外で学んだ敬語を実践した。」「アルバイトでの接客に実践した。」学んだことを身をもって実践している学生は決して少なくはないと思われる。そのことが学習量の評価に繋がらないようである。予習復習は机に向かってノートを開くこと以外にも、アルバイト先で、家庭で、部活で応用しながら復習出来ることを伝えていきたい。 ②プレゼン能力 (DP4)はチェックシートを使用・ビデオ撮影をして各学生にフィードバック。ビデオ撮影は2度実施。学生の目標達成「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3、9点で目標達成も「やや達成された」になったが、学生が想像している以上に相手に好感を与えて自己を表現することが難しいということが理解できた結果の点数と思われる。 ③「自分が学ぼうとしている専門分野」が3、4点～3、6点。学生によってなりたい職業がさまざまあり求めているものが違うため点数に現れたと思われる。どの職業にも必要な知識・能力を伝えているがそのことの理解が進むよう工夫をしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 「自分が学ぼうとしている専門分野」の達成度自己評価は比較的低かったが、どの職業にも共通に必要な知識と能力を学習していることの理解が進めば内容的に妥当と考える。 ②学生評価アンケートに具体的に取り組んだ学習として「企業研究」「リクナビサイトにて情報収集「マイナビ、リクナビを見るようになった」との自由記述からも授業の内容は妥当と考える。 ③学生評価アンケートの自由記述に「先生の授業は面白く、すぐタメになりました」の記述があり授業の内容は妥当と考える。 ④まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	①「期間内に行うべき学習範囲や課題が明らかであった」3、9点。模擬面接・リクナビ／マイナビ課題提出・企業研究（課題提出）・企業研究発表・グループ討議等を 学生にさせる上で、学生が何を求められているのか、どのようにしたらよいのか等課題があきらかになるように学生が理解できるように改善する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	①授業内容は学生の準備に委ねられている部分もあるがその期待に応えてくれたものとする。課題が明らかになるように学生が理解できるように確実に指示して いきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
人権と社会	1・2・3・4	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①DVDなどの視聴覚教材を盛り込むことで内容を豊かにした。 ②記述式のふりかえりを小論文形式にすることで知識に加え思考判断力も見るようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この講義は英語学科、観光文化学科合同の講義であり、総受講生が12名、内、英語学科は7名であって学科別の統計的数値は意味を持たないと思う。全体の平均値は84.19であり、観光文化学科が英語学科より幾分高いが、英語学科が格別低いわけでもない。おおむね好成績あることはまちがいない。 しかし、到達度自己評価を見ると、すべての項目に於いて「全くそうでないと思う」に1名が記入している。これは1人の学生に依るものと考えてしまうが、そうだとするとそれが授業評価であると言うより個人の意識の問題かもしれない。敢えてコメントはできない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けから見て真内容的妥当性 本科目は教職課程の科目であり、教員免許状取得を目的とする学生にとっては必修の科目となる。その意味ではどの学生も真摯に受講していたし、成績も良好であることから、内容的には妥当である。 ②DP、行動目標からの妥当性 成績評価から、学生はよく学んでおり、内容的に妥当であった。 ③まとめ 以上から内容的妥当性には問題がない。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では3つの項目に於いては3.9～4.1という評価だったが、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生の参加する機会が作られていた」及び「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」に2名ずつ「そうでない」に記入した学生がいる。そこは反省すべきかもしれない。しかし、いずれも「かなりそうだと思う」に2名ずつ記入しているので、なんとも言えない。 自由記述に「自分の興味を持った人権問題を調べた」「いちばんおもしろい授業でした」というものがあつたのはそれなりに意味のある内容だったと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	長い間やって来て、ずいぶんよくなってきたはずであるが、まだまだ学生とのコミュニケーション面で不足があると思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	後藤 宇生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と経済	1・2・3・4	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	身近な経済問題を考えることとゲーム理論やマッチング理論など経済学の最近のトピックに重点を置いた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の受験者は、良い点数を取っていたことから、そのように判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	最近のトピックの知識の理解とはできたと判断している。そのことからDP1は満たしていると考えている。 また理論的な話も多いことから思考力も鍛えることができている考えられる。そのことからDP2は満たしていると考えている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	映像やニュースがあるものはできるだけ利用して講義を行った。 さらなる対策として、練習問題を増やすことを考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生からの意見や質問を受けれる時間を講義内に入れることが課題です。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
西洋の音楽と文化	1・2・3・4	前期	選択	はい	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①この授業では、西洋の文化的要素を取り入れながら、キリスト教と教会音楽の歴史を中心として解説するよう心掛けた。今回の履修者の37人が一年生であり、音楽という科目名が身近で、履修しやすいというイメージを持つ学生が多く、受講動機は、「単位数を確保する」75%と高く、「関心のある内容である」35%であり、この二つの項目に集中していることは、このことを示唆するものであった。②キリスト教音楽については、ほとんどの履修者が初めて得る知識であるため、授業の終了時に感想および質問を書いて、学生の理解状況を把握するよう、計画した。また8コマ目と最終回にレポート課題を出し、授業内容をまとめ、学生の復習への意識を高めるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達した。理想的レベル(レポート80点以上)に達したものは、14人であった。目標別にみると、知識理解に関しては85%、意欲関心に関しては75%であった。意欲関心では、授業で得た知識を理解し自分なりに整理し、自分の興味がある分野の文化に置き換えて考えることができるか、を問うものであり、後者は普段から様々な文化に対する意識を持つことを、初回から具体例をあげて予告することで、より達成されると思われるので、次年度に向けて検討したい。学生による授業評価においては、知識理解の観点、意欲関心の観点での自己評価に大きな差はないことが示された。この点についても、初回において達成すべき目標を示すとき、具体的な例を用いて解説するなど、工夫するようにしたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップの位置づけからみての内容妥当性：本科目は、教会音楽について解説するものであり、大学の柱であるキリスト教に対する理解の基礎的教養科目です。音楽に関心を示す受講生も多く、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。②DP、行動目標からみての内容的妥当性：成績評価から「知識理科」および「意欲関心」、そして「全体を通して」やや達成されており、内容的にも妥当であったと思われる。③まとめ：以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、すべての項目において、平均値が3.5点以上であった。学習量の評価の自由記述に、授業内で理解できたため、課題以外の自主学習の必要性をあまり感じなかったという記述があったので、学生が自ら授業で得た知識を発展できるよう、課題等の検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、キリスト教音楽を中心に西洋の音楽と文化について解説することで、「文化と宗教」に関する基礎知識の形成はおおむね達成できたが、意欲関心に関しては、より達成できるよう、改善を行っていきたい。授業過程を振り返ると、毎回讃美歌を歌う時の学生の表情は生き生きしていた。学生が主体性をもって授業に参加し、意欲関心をもって学習に取り組めるよう、さらなる工夫を重ねていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The focus of this seminar was on using movies, TV shows, and other media to build English skills
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This group participated well in all activities, though they needed more focus on their follow through and background study.					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All areas were achieved well, though as stated above, they needed more focus on follow up.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Nothing in particular

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Nothing in particular

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必修科目である」が100%であった。「関心のある内容である」からこのゼミを選択したのかもしれないが、そう回答したものはいなかったのは残念だ。②今年度からは授業の初めに新聞を分析発表する活動を加えて、世の中の動きに対しクリティカルシンキングを促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員毎回の課題をきちんとこなし、積極的な態度でゼミに臨んだため、成績は「優」とした。学生の到達度自己評価によると全員の学生が、全ての項目で「割りにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を選択している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容妥当性:ゼミという特性上、専門分野に特化した内容を扱っており、学生の動機も明確であるので、妥当である。②DP、行動目標からみても内容的妥当性:内容的に妥当である。③問題なし
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価ではすべての学生がすべての項目で④⑤を選択している。図書館の利用は、利用者は3分の1程度であった。学習量では、ほとんどの学生が⑤を選 択しており、学生の発表中心のゼミだけに、学生が自発的に毎回一定時間自宅学習してくれたのは、喜ばしいことである。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	6人中、3人が第一希望で入って、残りが第二希望で入ってきたゼミ構成であったが、6人全員が円満で親しみやすい雰囲気を持続してくれ、学習意欲も高い半期と なった。また夏休みには、課題は出さなかったものの、それぞれインターンシップなど、就職につながる活動を頑張った。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の3つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、社会人基礎力の育成をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	アンケート調査の結果より、学生の満足度はとても高かったと判断できる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、社会人基礎力の育成をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。学生全員に高い満足を与える授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習 I	3	前期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会等を学生自らが体験出来る機会を設ける予定であったが、学生の授業の関係で実施することができなかった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	発表や提出物について、全員が標準以上のレベルに達していた。特に授業の中での取り組みについては、全員が熱心に参加し、きちんとした思考に基づき適切な判断が行えていた。 学習到達度の自己評価については、全員がすべての項目について「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答しており、学生自らもある程度達成感を得られているものとする。 学習量の評価については、学生によって予復習の時間に大きな隔たりが見られる。個別に対応することを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、どの項目についても全員が「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」のいずれかを回答している。また、すべての項目について平均値は4.3、中央値は4.0であり、授業の進め方についても概ね妥当であると考え。一方、来年度の卒業研究に向けての基礎固めの課題が多かったためか、授業の課題以外に取り組んだり、図書館等を利用した学生が少なかった。学生が発展的な学修に自ら進んで取り組むような工夫を今後検討したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教育目標については、概ね達成できていると思われるが、意欲関心と技術表現の面では課題を残している。具体的には、テキストや配布資料の学修にとどまったり、技能表現の不十分さから討論の深まりに若干の問題が見られる。少人数で実施している授業であるので、それぞれの課題について、きめ細やかに指導していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	神崎 明坤

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国の社会と文化	1・2・3・4	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生から4年生までの総合人間科学の授業であるので、授業の最初に中国への理解や学習準備状況の確認アンケートを行い、不足の項目に△△を新たに加えた。 ②国際的視野に立って中国のことを幅広く学び、考えながら、異なる社会文化に触れていった。15回授業にそれぞれ異なる内容の勉強により、より深く異文化理解をしてもらった。 ③中国社会文化に関心を向上させるために、10回目にレポートを提出してもらっていた。 ④学習状況を確認するために15回目にテストを行い、学生の意欲を高めるためである。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね90点以上として試験を作成)に達したものは10名となった。 目標別にみると、知識理解に関しては学生による授業評価においては授業の課題以外に具体的に取り組んで学習はPCで調べたり、学生のそれぞれの関心問題ー中国の科学・教育などに関心問題を調べたりしたことが示された。これは学生が思考判断で何が問われているかを提出されたレポートは幅広い領域に亘った豊富な内容であった。但し、授業の課題以外に学習していない理由については「なにをすればいいか分からなかった」、「特にすることがなかった」などの自己評価が示された。これは、勉強に積極的、自覚していなかったことが考えられる。次年度に向けて明確に指示・指導しなければならないと反省点が考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は総合人間科学の科目であるが、総合的な視点と豊かな人間性を養うための教養教育科目の位置づけ、学習者の国際的社會文化を修得して国際的な視野を広げ、多様化、多様性を複眼的に備える人間の育成の内容的には妥当であると考えられる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量評価において、授業の課題以外に学習していない理由としては、配布された資料がなかったから、何をすればいいか分からなかった。特にすることがなかった、等が挙げられた。次年度に向けては、まず学習量・範囲をより具体的に示したうえで、学習時間・学習量・方法を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学にあたる本科目の位置づけから教養教育グローバル化社会に臨んでいる大学生としての教養を得ること。中国社会文化を学習すると同時に、関連する日本の社会文化などを理解してもらうこと。 以上から毎回の狙いを具体的に示すこと、可能な限り考える時間を取ること、復習課題を意識的に提出できるように、工夫を凝らしていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	笹山 郁生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
統計学入門	3・4	前期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の選択授業であるが、授業内容は「統計学」であるため、日頃、英語を学んでいる受講生にはなじみの薄い内容であると考えられる。このことは、本授業の受講動機として「関心のある科目である」と回答した受講生が28.6%であったのに対して、「単位数を確保する」と回答した受講生が52.4%であったことからもうかがえる。 そのため、授業内容について受講生に親しみをもってもらうことを目的として、毎回、受講生を4名程度の小グループに分け、授業内容をグループ内で確認し合うことができるようなグループワークを取り入れた。また、授業内容をできるだけ理解してもらえるよう、可能な限り、数式を用いずに説明することを心がけた。さらに、毎回、授業内容を復習するための課題を課すことによって、講義内容の定着を目指した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	昨年度と比較して、本年度は、学期途中で受講を諦めた受講生が少なく、毎週の課題の合計点の平均値も、昨年度と比較して5点程度高くなっていた。このことは、ほとんどの受講生が毎週の課題をしっかりと提出していたことをあらわしている。また、受講生による到達度自己評価の結果も、すべての項目において、「全くそうではないと思う」「少しそうでないと思う」を選択していた受講生はほとんどいなかった。これらの結果から、すべての受講生がある程度、授業についてくることができたものと考えている。ただし、毎回課題を課していたにもかかわらず、1回30分以上の復習を全くしなかったと回答していた受講生が41%いた。これらの受講生が、授業内容をどの程度理解できていたかどうかについては不明である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「統計学」であり、他の授業と比較して、受講生にとってはなじみの薄い内容であったと思われる。しかしながら、統計学についての基礎知識は、英語学や英語教育学で卒業論文を執筆する際に必要となる知識・技能であるとともに、教職に就く場合にも、教育評価の基礎となる知識・技能であるために、基本的な内容については身につけておく必要があると考える。受講生の到達度自己評価を見ると、「自分の学ぼうとしている専門分野」との関連性に対する各設問に対して、すべての受講生が少なくとも「まあまあそうだと思う」と回答していたことより、受講生はある程度、本授業を学ぶことの意義について理解することができたものとする。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業では、授業内容を確実に理解してもらうために、毎回の授業にグループワークを取り入れたり、毎回、復習課題を課すなどした。また、受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整した。このような方針で授業した欠課、授業の質評価の全設問に対して、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した受講生はいなかったことより、授業内容がまったく理解できなかった受講生はいなかったものと思われる。ただし、期末試験の結果を見ると、標準偏差が昨年度よりもさらに大きくなっていた。このことは、試験の得点に大きな個人差があったことを意味しているが、この個人差を少なくするための工夫が必要であると考え。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価の結果を見ると、全体を通じて、授業に対して否定的な回答はほとんど見られなかったことから、受講生はある程度、授業内容に満足したものと考え。ただし、授業内容に対する理解度の個人差が大きくなってしまったことは問題である。課題の解答状況を概観すると、毎週の課題にしっかり取り組んだ受講生と、友人の援助を受けて課題を完成させた受講生がいたものと推測されるが、友人の援助を受けて課題を完成させていた受講生は、授業内容をあまり理解できていなかった可能性が考えられる。来年度はより多くの受講生が、毎週の課題に自ら取り組むようになるよう、課題の課し方を工夫する必要があると考え。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道德教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道德教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道德教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成されなかった		やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均点は74.1点(昨年度は60.0点)、合格率は100%(昨年度は60.0%)であった。平均70点を予想していたが、それを上回った。 合格者のうち、秀は6.3%名(昨年度0%)、優は31%(昨年度は20%)であった。 指定された枠組みを守りながら最低限のアウトプットはできており、知識理解についてはある程度達成されたといえる。ただし、授業のねらいと教材や授業展開の工夫など、思考判断については不十分であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道德教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方としては(1)道徳とは何かという理論編(2)日本の学校教育における道徳教育の位置づけ(3)学習指導案の構造と授業の実際(4)自分で道徳の授業を組 み立てる、というものであった。 (3)と(4)に関しては同時並行という形になり、常に自分ならどのような授業にしたいかを考えて授業に参加することを求めた。 指導案の内容を見ると、教材研究のオリジナリティという点で更なる向上が必要と感じる。きちんと約束事を守った指導案というレベルには達しているが、より深い教 材研究や授業方法への工夫など改善することができるだろう。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	昨年度と比較して、全員合格という結果はある程度満足できるものだ。ただし、自分なりの授業を作る意欲という点で更なる改善が必要となる。具体的には秀の学生 を増やすことを目標に、実践的な力量形成を目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。それ故、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」というThink-Pair-Shareを何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がかなり高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今学期は受講生13名で、昨年度の8名から大幅に増えた。その環境下で、できるだけ学生と会話する時間を取るよう努めた結果が、アンケート調査の点数に表れていると思われる。「5限できつくてDVD鑑賞や話の時に眠かった」という学生からの自由記述に関しては、集中力の維持ができていないかについてのモニターを、これまで以上にしていきたいと考えている。また、「現代の日本語教員のDVDを観たい」という要望に関しては、2年次以降の「演習」科目で対応しようと考えている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していると考えている。5限目の授業での集中力の維持に関して、次回以降はより積極的に取り組んでいきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	2・3・4	前期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	豊かで鋭い言語感覚を習得することが出来るように、また、英語学科における教育を意識し、言葉の背後に隠れている日本文化についても認識を深めることができるように数々の方法論を提唱し、学生たちが、自ら実践しやすい事例、表現を提示しながら、講義を進めた。社会に出て立派に通用するために、小論文作成、その他の伝達文作成等々、学生との密なマンツーマン指導を行った。敬語の問題・日本人特有のぼかし言葉・間違いやすい日本語表現・論文の上手な書き方・手紙の書き方等々を通して学生の学ぼうとする、士気の高まりが感じられた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	当初は達成度が約60%位であったが、学生自身の学びの自覚が見られて後、徐々に80%あたりまでは伸びたように思う。図書館活動においては、かなり真面目に、積極的に熱心に集中できた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置付から見た内容的妥当性はよかったと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、科目の特異性がどうしても反映されるところである。日本語表現法は、受け身ではなく、積極的に本人のあやまりを正すことが、第一目的であり、上質な表現に触れながら、同時に身につけなければ意味がないので、講義の方法としてはあくまでも少人数教育の良さと取り入れながら進めていって
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括的には、最終講義までには、何とか全ての学生が、まずまず達成できていると思われる。
-------------------------------	---